

皆さん初めまして。私は、外国語学部ドイツ語学科 4 回生の岡本美早です。3 回生の時に、幼い頃からの夢だったドイツ国際平和村へ行こうと決めて、4 回生の 1 年間を休学し、2013 年 7 月末から 2014 年 4 月 1 日までの 8 ヶ月間、ドイツ国際平和村で研修生として働かせていただきました。

皆さんは「ドイツ国際平和村」という村をご存知でしょうか？この村は、ドイツの北西部にあるオーバーハウゼンという町にある村で、母国では治療をすることのできない貧しい国の子ども達を世界中から連れてきて、ヨーロッパで治療をして母国へ返すという活動を 40 年以上にわたり無償で行っている団体です。私がこの村の存在を初めて知るきっかけとなったのは、小学 2 年生の時に観た「世界ウルルン滞在記」という番組です。当時の自分と変わらない歳の子ども達が、親元を離れて異国の地で辛い治療やリハビリを受けているという現実に関心を持ちました。

ドイツ国際平和村を訪れるというのは私の幼い頃からの夢でした。幼稚園と中学・高校の 6 年間をカトリックの学校で育った私は、学校に「宗教」という授業や、月に 1 度「粗食*」という習慣がありましたから、その頃から貧困国について学ぶ機会は多かったのですが、おそらく、こうした昔からの環境が私に国際問題や人道支援について興味をもたせるきっかけとなったのだと思います。もちろん、高校生時には他にも色々なことに興味がありました。好奇心旺盛で色々な世界や職業に関心があり、自分がやりたいことを 1 つに絞ることができなかつたのですが、いざ真剣に進路を考えなければならない時期になり、どこの大学に行こうかとパソコンで大学情報を調べていた時、ある方のレポートが目にとまりました。その方は、京都産業大学在学中にドイツ国際平和村へ行きその体験を綴っておられたのですが、そのレポートを読んだ私はこの大学に行けば平和村へ行く道があるかもしれないと思い、京都産業大学を受験しました。

(粗食* : お昼ご飯はいつものようなお弁当ではなく、おにぎりを 1 つだけ食べて、空腹を味わっている貧しい国の子どもたちに心を寄せましょう、という習慣)

私が休学に一步を踏み出せた理由は、社会人として社会に出るまでにできる自分への投資期間は“この今”しかないと思ったからです。もともと「休学」という考え方に対しては何も抵抗はなかったのですが、休学にはお金も必要ですし、本来ならそろそろ就職活動を始める時期に「休学」を決断するということは多少の勇気はありました。しかし、“今”経験しておきたいことは“今”経験しておくべきだと思ったのです。世界を知ること、異文化に触れること、視野を広げること、そして自分の未熟さを知ることとは私にとって、“今積んでおきたい経験”そのものでした。

決意の裏にはなにも不安が無かったわけではありません。その時の私は、まだ一度も海外に行ったことが無かった上に、飛行機は高校時代に修学旅行で乗ったことがあるくらいでした。ですから右も左も分からず、パスポートの申請や航空券の手入方法といった初歩的なことさえ知らないほど、本当に無知でした。空港での手続きや乗り換え、入国審査などこれらを全て一人でこなすことに最初はとても不安でした。しかし、休学を決めてドイツへ行くことが正式に決まった時には、いつの間にか不安を上回るほどの海外への好奇心と期待、自分ひとりでもどこまで出来るのか知りたいというような気持ちがありました。

この記事を読んでくださっている方々の中には、これから留学する予定のある方や、いずれ海外へ行きたいという方がおられるかと思います。交換留学、短期留学、ホームステイ、ワーキングホリデー、休学留学、と色々な留学の形がありますが、どんな留学をするにおいてもその限られた貴重な留学期間を最大限に利用してほしいと思います。「留学」は期間ではありません。たった1ヵ月の留学でも得られるものは必ずあります。私にとっては、初めて見るもの、初めての異文化、初めて出会う国の人など、全てが新しく感動の毎日で、海外での8ヵ月間は驚くほど充実した毎日でした。

ドイツというのは休暇制度が法律で決まっているので、長期間のまとまった時間が手に入るのも大きな魅力の一つだと思います。ヨーロッパ、とくにEU圏というのは、行き来しやすく国境が低いのがとても便利な点です。私はずっ

とバックパックで世界を旅するというのが小さな夢だったので、この長期休暇を利用して積極的にドイツ国外へも行こうと思い10ヶ国の旅をしたりしました。一番遠いところでは、北極圏の方までオーロラを観に行ったりもしたのですが、旅というのは楽しいだけではないと分かってはいたものの、やはりハプニングやトラブルはつきものでした。しかしそういった状況で感じる“人々の温かさ”というのは計り知れない感動を私に与えてくれました。旅を通して数えきれないほどたくさんの人々との出会いがあり、その国その国の人々の温かさを知ることができました。これが旅の一番の魅力だと思います。

そしてまた、ドイツ国際平和村や旅を通し、「笑顔」に国境はないと感じました。私にとって今まで「海外」というのは遠い存在でしたが、海外へ行くことによって世界を近く感じることができ、確実に価値観や視野を広げることができましたし、この留学経験でお金には変えられない貴重な経験を十分に積むことができました。これは私の財産だと自信をもって言えます。

ですから、夢があるけど勇気が出せず、一步を踏み出せない人も是非思い切ってほしいと思います。きっと、行って良かったと思えるはずです。自信もつくはずです。今しかできないことを悔いなく経験してほしいと思います。

～最後に～

「シンポジウム」という貴重な場を作ってくださった島教授、杉村教授、本当にありがとうございました。

そして、そこへ足を運んでくださった皆さん本当にありがとうございました。

私と川村君で募った「平和村への募金」は、皆さんの温かいご協力により合計3673円集まりました。本当にご協力ありがとうございました。

責任をもって、ドイツ国際平和村へ寄付させていただきました。

シンポジウムをきっかけに、皆さんが少しでも子ども達に心を寄せてくださったことを大変うれしく思います。ありがとうございました。